

五日歌壇

伊藤 一彦

米川千嘉子

加藤 治郎

水原 紫苑

炭のようなボネトチップスかもしれない歯先  
に並ぶ色のない鏡 名古屋市 田中 靖人

△評▽包装の白黒化を歌った上の句のつぶ  
やきはさすがの皮肉。メーカーをこままで  
追いついた原因と責任を問うている作。

少したけ平行線を傾けて君をあた名で呼んで  
いいかな 高崎 門田 藍子

△評▽比喩も文体も新鮮でみずみずしい  
歌。「平行線を傾け」が特に秀逸だ。

どれくらい好きかと聞けば「目による」と真  
顔で返す日曜の朝 松戸市 小林 甲純

△評▽この会話をスキルに落としこむ器な関係  
知りうる会話をスキルに落としこむ器な関係  
は今日も通って 東京 藤沢 幸二

輪の花白秋しのべは胸内に静寂のあたたかさ  
△ 東京 河野多香子

角がとれ個性失くししまん丸の白石に問ふこ  
れまでのこと 堺市 渡部 芳郎

隣り家の解からのぞく夏みかん樹を眺め  
し地に落ちにけり 川崎市 大平直穂子

夏浅し川のうねりをなぞりつつ東となり風か  
けぬけてゆく 東京 奥山いすみ

タイムとふビソクの小花咲き満ちて不倫を疑  
へし友と眺むる 倉津若杉市 ともりゆめ

△評▽タイムは料理によく使われるハー  
ブ。恋の経緯も知る作者か。友の決断や納  
得など心中を思いやっているのだろう。

ひさしより昔時は竜に変わったお知らない夢  
に連れてくからね 東京 結羽 成

△評▽上旬は眠ったときの夢勢だろうか。  
せめて一夜の夢に現実を逃れられるか。

ヘルンマークに麻織らむと立ちたれと神しとあ  
らるるまの身あわれ 四街道市 石原 典武

△評▽髪をすきむと 大阪府 森川 慶子

神めはしすかに雫れ落ちたところつわに無限  
の深さはなくて 四万十市 佐竹 繁円

はつなつの風に一入を懸いているカーテンの思  
うすみどりなり 垂水市 岩元 秀人

断崖の元は鳥籠で賣った娘ごめんさいわ  
使い切れず 堺市 岡村 文字

指不役と実行役の分想ほどの会社もあるこ  
となれど 東京 佐藤 一郎

東京に夏草にけらし虹色の異國語とびかいは  
とバスが行く 東京 青木 公正

△評▽東京にけらしは詩情天童の和歌の本  
歌取りである。和歌の白鳥を虹色に染めた。

夏の朝知らない人の産生白うつつすいアイスコ  
ーヒーが美味い 守口市 寺前 晴

△評▽知らない人の産生白がわかる。SN  
Sの情報ではなくて、四切めの調べが美しい。

もう声に弾力はなくてAが僕の歯舌で僕の  
名を呼ぶ 東京 境 千尋

△評▽文鳥が待ってるからと囀る君いつか一緒に住  
めたらいいな 堺市 荒田裕里子

戦争に代わりに行ってくれないか電車で乗っ  
たトノサマバッタ 堺市 あ や

歌式で埋めた言葉遣いは 友らはすでに  
奥の奥へと 東京 遠藤 敏

工場でカッパライメン食べながら花の図鑑を  
めぐる青年 東京 嶋村 純

かけすぎたドレッシングを避けながら梅梅は  
かりの白い食卓 川崎市 新井 将

羊水のわむりのなかを暖めぐる白羊よもう  
目を開けて 笑って 加古川市 石村 まい

△評▽やっぱり羊水には羊がいた。目をつ  
ぶったまま暖めめぐる、夢の白い羊よ、母  
を知っているか。

まよなかを手紙になって過ごすときくらの  
切手を貼ったらしいの 堺市 大原 香花

△評▽いったい誰への手紙？ ああその前  
に切手が必要。またこの世だから。

まな板の寒さに導ふ熱帯より切り取られたる  
ドリアンの輪郭 甲府市 村田 一広

△評▽とととてん突き水へし夕陽よ懐のこころに  
纏わりつけたし 東京 吉岡 耕大

サルベージされない遊覧船のようオルガンは  
青野原のなかで 安城市 藤澤 うに

詩のない美術館では暖かかけた鑑賞人も想像  
になる 名古屋 屋 河

節の節の生まれるようなさえずりがスタンド  
グラスを傷めておりぬ 国立市 蔵 井

神を待つ人の手はきれい 百年後ひかりはじ  
めるスフィアの端 堺市 古志 夏南

ぬいぐるみのわたをすべてぬいたあの日から  
うまく愛せないなとも 堺本市 夏風かをる

イルカ抱きそのぬくもりに新しく知る海はず  
べてを抱いていた 堺市 光川 匠子

投稿規定 はがき1枚に題名を前定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8061(住所不要)毎日新聞学芸部、宛先は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望題者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(https://mainichi.jp/kadan/haibun/)でも受け付けています。他媒体との二重投稿や同一作品を複数の読者に投稿するのは厳禁。投稿は題詞を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句でふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます